

びかりそうにしています。  
お奉行が一段と大きな声で言いました。

吉長「お前たち、命が惜しければ、今すぐここを立ち去れ。真劍勝負をしたのならかかってこい！」

⑪ お奉行の大きな声に、賊たちは後ずさりをして、一瞬『シーン』と静まり、前へ出ようか、逃げようかと迷っていました。次の瞬間、須卜の息子が大きな声を出しました。  
須卜の息子「逃げろ！」

その声に、賊たちは、はじめられたように、

賊の仲間「わあっー。」

いつせいに刀を放り投げて、逃げ出しました。役人たちは、賊を追いかけようとなりました。

吉長「追うのはやめろ。逃げたいものは逃がしてやれ。」  
お奉行が言いました。



を開き、汗でじつとりとぬれた自分の手を見つめました。

### 与右衛門

「よかったです。無事に終わってよかったです。」

与右衛門さんは思わず、握りしめていた手を

それから一か月後、お奉行は牢屋に入っている須卜に言いました。

吉長「須卜よ、お前の息子や仲間は、奉行所をおそってきたが、『命が惜しい』と、刀を捨てて、ここから逃げ出していったぞ。お前も人間だ、命が惜しければ助けてやる。

今までのことをあやまり、仲間と共にこれから風早のみんなが、平和に暮らしていけるようにしっかりと働く気があるか。さあ、どうする！考えろ。」

だまって話を聞いていた須卜は決心したように言いました。

⑫ 須卜「私はまだ死にたくない。これからも生きていきたい。だから、これからはみんなの力になれるように、がんばるから助けてください。お願いします。」

須卜は、お奉行の顔をしっかりと見ながら何回も頭を下げました。

吉長「よし、本当にそのように考えるなら、牢屋から出してやろう。しかし、もしその約束を破ったら、その時は命はないと思え。」

こうして、須卜夫婦は、牢屋から出されました。その日から、ふたたび、事件が起こることはありませんでした。

吉長「ようやく元の静けさに戻ったようだ。しかし、大変な事件であった。これからも、みんなが安心して暮らせるように守っていくの



が、奉行所の仕事であることを忘れてはならぬぞ。」

お奉行は、奉行所の役人や与右衛門さんに話

しました。  
それから間もなく、おじいさんの吉長は、風早の奉行として、いろいろなことがあった三年間の仕事を終えました。

吉長「与右衛門、大洲へ戻ったらどんなことがしたいと思うか。」

与右衛門「はい。私は風早でいろんなことを教えてもらいました。人々が、幸せに暮らせることの大切さが、分かりました。

私は、自分が大人になった時、恥ずかしくない生き方ができるようにもっと、もっと多くのことを学びたいと思います。」

二人の話を聞いていたおばあさんは、『与右衛門さんがとても頼もしくなった。』と、うれしく思いました。

やがて三人は大洲へと戻って行きました。が、与右衛門さんにとって、生涯忘れることのできない風早での三年間となったのでした。

(おしまい)

## フォトニュース



新旭南・北小学校は、北小学校へ保木理事が出席

市内全小学3年生に「よえもん君クリアファイル」贈呈  
(3月上旬 各小学校の立志祭の場で)



林田明大氏を迎え、心のセミナー開催  
2月10日(土) 安曇川公民館 約100名参加